

【参加者による質問 への回答】

2019年6月14日 吉田

※ 先日は、私のつたない話をお聞きくださり、ありがとうございます。いただいたご質問について、お答えさせていただきます。

○地域と学校の連携を進める上での(コミュニティ・スクールを立ち上げる上での)、手順や段取り、留意点など。

まず、最も重要なのは校長(あるいは中心となる学校関係者)の強い熱意とベクトル(方向性)です。基本的に、個人の場合はやりたいことやビジョンに特に理由やエビデンスは不要ですが、組織の場合は『なぜやるのか』『何を指すのか』『何のためにやるのか』などのビジョンの根拠やミッション(使命)が必要です。それを踏まえて、数人(最低でも3人)の共感者や支援者を確保することが求められます。

次に、学校運営協議会のメンバーになってくださる方を決めます。私の経験では、学校評価型より学校支援型のタイプの方が望ましいと考えます。学校とのベクトルが一致しないとうまくいかないからです。また、地域における葛藤(例えば町会と自治会、青少年対策委員と民生児童委員、PTAのOBと地区協議会委員との間の行き違いや仲違い)があると、それが学校経営や運営に持ち込まれることになることから、十分人選に気をつける必要があります。

最後に(本当は並行的に検討すべきですが)設置教育委員会との連携や協働が必要です。場合によっては教育委員会や議会にとって、不都合な人選となったり、政治的な偏りが見られたりすることもあるからです。その意味で、政治家の方々や公募委員を学校運営協議会委員にするのは私はお勧めしません。

○教師の多忙化解消(働き方改革)と、地域との連携・協働をどのように折り合いをつけられればよいか。

(相反していないのか?)また、職員の意識をどのように向上させるか。

基本的に考えるべきことは、その導入により学校現場が混乱したり、より忙しくなったりすることのないようにすることです。これは全ての教育改革の取り組みに言えることです。話は異なりますが、ICTの導入についても全く同様です。教員の働き方改革が取り上げられる今日、教員をより忙しくするような取り組みは避けるべきだと考えます。むしろ、教職員を学習面・生活指導面で支援したり、負担を軽減したりする方向で地域との連携・協働を考えるべきでしょう。

そのためには、例えば放課後学習教室の地域による自律的運営(指導者と運営者を地域で担うなど)や家庭的に問題のある児童・生徒の学習時間+夕食などの提供による学校・学力・生活力支援などが良いと思います。学校運営協議会の書類は一層簡素化し、職員会議資料と同様にすることを検討します。

また、教職員の意識を変えるためには児童・生徒の参加や児童会・生徒会担当者の協力などが必要です。そのためには、行事や取り組みそのものが「明るく・楽しく・前向きな」ものである必要があります。特に児童・生徒や若手教員にやりがいを与えるには、楽しく面白いものである必要があります。

取り組みへの参加により何らかのメリットが得られるようにすることが望ましいでしょう。お祭りの自警団や引率などでは、勤務時間外なので、単なるボランティアではなく飲食を伴う懇親の場などの設置も必要です。(金銭はダメですが、楽しく一緒に食事をするなどは可能です。)

○地域側のコーディネートを担う人材をどのように見つけられればよいか。

(現状、地域側の人材がいなく、学校側がコーディネートしている)

人材の発見や登用は、企業でも学校でも、地域でも、最も難しい課題です。やはり地域のネットワー

クをうまく生かすことです。PTA役員OBや町会長、民生児童委員、青少年対策委員、保護者など、地域で活躍して概ね評判の良い方をお願いすることが大切です。人材がないからといって、学校側だけがコーディネーターすることになると、これまで以上に全て学校ペースで行われることになり、開かれた学校づくりや社会に開かれた教育課程などの実践が遠のくこととなります。

本来は地域で人材を育成することが必要なのです。そのためには、これまでの公に近い役割だけでなく、「ちょいボラ」などでワンポイントで協力して下さる方々を多く集めることも必要です。例えば、土曜日の学習会には、地域に呼びかけて茶道、華道、料理、遊び、読み聞かせ、英語、理科、工作、美術、書道、絵画など多様な教室を設置し、その中で人気の高い方をお願いするなど、新たな方向からの人財発掘や開発が求められるところです。教科専門のアドバイザーの公募などでもいいかもしれません。

○地域との連携・協働による(コミュニティ・スクール化による)、好事例(子供や学校の変容)を具体的に知りたい。

HPにはそれぞれの地域の生涯学習に関する事例がそれこそ山のように掲載されています。それらを参照すると良いと思われます。(例として、東京都の生涯学習情報があります。ご参照ください。

東京は都市部から諸島地方まで広くて豊かな多様性がありますので、ありとあらゆる事例が参照できます。「とうきょうの地域教育」バックナンバー参照。HPは下記です。

<http://www.syougai.metro.tokyo.jp/sesaku/mishoubn.htm>【自己肯定感・有用感・効力感・貢献意識】

しかしながら、私はやはり地元(同じ県や市でも異なる風土)に密着した独自の取り組み事例を開発することが最も望ましいと考えます。以下、そのヒントとなる多様な協働活動を単語でご紹介します。

- ★保育園・幼稚園段階：一緒にお散歩し隊／絵本読み聞かせ隊／一緒にお昼寝し隊／他孫プロジェクト
／インスタンドおばあさん・おじいさん／保育食堂／子育てお悩み相談会 等
- ★小学校段階：学童クラブとの連携と協働による放課後居場所づくり／放課後図書室・館活用での読書活動・一緒に読み聞かせ隊／朝の食事会と勉強会／子ども食堂と勉強会／放課後クラブ
／土日文化クラブ／土日遠足し隊／祭礼を楽しむ会／親子相談会／道徳地区講座 等
- ★中学校段階：授業見守り隊／早朝・放課後挨拶運動／生徒会との協働による街づくり・美化活動／職場体験学習(事業所探し・開発・協力・外部講師招聘等)・事前事後指導・発表会参画／地域総合防災訓練／地域救急救命講習／放課後・土日の資格講座(英検・漢検・数検等)
／土日放課後英会話教室／地域での多様な文化教室／市民大学講座／自治会参画／学校運営協議会メンバー参加／地域への学校貢献活動(各専門委員会による地域活動) 等
- ★高等学校段階：進路相談会(先輩や地域の人の話を聞く会・語り合う会)／地域活性化企画会／地域特産物開発とバザール開設／ネットを活用した地域興し隊(ふるさと納税誘致企画)／外国人の悩みに答える会／グローバルとローカルをつなぐ企画会／ふるさと留学生招致事業／地域教養講座(インサイドアウト・アウトサイドイン学校知と地域知の融合) 等

○地域連携担当(学校側)の具体的な役割。

地域と学校を結ぶコーディネーターの役割を担っていただきます。公的な職名として、組織同士の媒介・仲介的な役割を担います。また、複数の組織のそれぞれの代表として機能します。したがって、担当者は複数名が望ましいです。地域と学校、各組織を結ぶ際、メリットとデメリットについて現状の調査・分析・考察・報告により「強みを活かし、弱みで繋がる」ことができる方向を模索していただきたいです。